【テーマ】
「図書館のサービス改善とDXへの取り組み」
【主催】図書館分科会　　活動報告

日　時：2023年12月4日（月）13:30 –16:00
場　所：東京学芸大学 ＋ オンライン配信（Webex）　（ハイブリッド開催）
出席者：80名

１．研究内容

東京学芸大学様から「東京学芸大学の図書館と知の未来」と題して附属図書館におけるDX推進の取り組み事例や将来構想を詳しくお話いただき、その後、図書館をご案内いただきました。
後半の交流会はグループにわかれて、講演や図書館見学からの気づき・感想や自学のDX取り組みなどを参加者同士がお互いに発表することにより他大学が取り組んでいる事例や課題を共有する場となりました。
（内容詳細については「3項 概要レポート」をご参照下さい。）

２．スケジュール

13:30　分科会開始
〇開催挨拶

○ご講演
「東京学芸大学の図書館と知の未来」
国立大学法人 東京学芸大学
総務部 学術情報課長（併）情報基盤課長 高橋 菜奈子　様

○質疑応答

○図書館見学

○交流会（意見交換）

〇閉会挨拶
16:00　分科会終了

All Rights Reserved,Copyright © Campus System Research Group of Private Universities 2023

３．概要レポート

※当日の講演の様子（録画データ）は
「CS研・IS研情報交換サイト https://csis.ufinity.jp/shared 」
に掲載（会員限定公開）予定。詳細は5頁「事務局より」をご参照下さい。

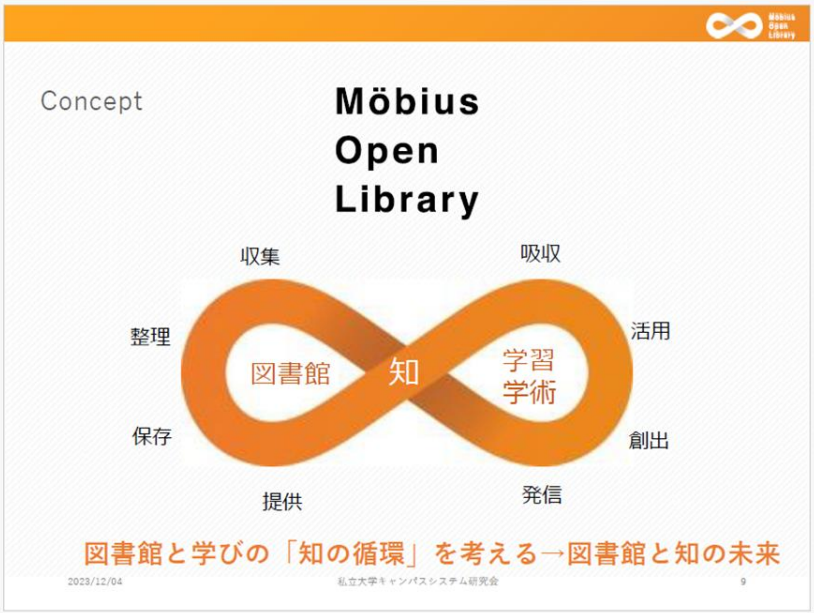
「図書館のサービス改善とDXへの取り組み」

12月4日（月）、図書館分科会が、国立大学法人 東京学芸大学図書館の会場とオンラインのハイブリッド形式で開催されました。明治大学 植木氏の司会で、共立女子大学 小國氏が「図書館分科会は、コロナ禍の間ずっとオンラインで開催されていたため、久々の対面開催となりました。ただコロナ禍の前と違ってハイブリッド形式のため、現地に来られない遠方の皆様も多数ご参加いただいています。今回は、国立大学と私立大学で土壌は違いますが、ぜひお話を伺いたいと依頼したところご快諾いただき東京学芸大学での開催となりました」と開会の挨拶を述べました。
東京学芸大学 高橋菜奈子様のご講演の後、会場ご参加の方のみ図書館施設見学、交流会を行いました。

■ご講演：
「東京学芸大学の図書館と知の未来」
国立大学法人東京学芸大学
総務部 学術情報課長（併）情報基盤課長 高橋 菜奈子 様より

○図書館を「知の循環の再構築」ができる場所に

東京学芸大学は教員養成を目的とした単科大学です。学生の教育実習の受け入れ先という位置付けもあり、附属学校が幼稚園から高校まで、特別支援学校も含め12校園あるのが大きな特徴です。児童・生徒数の合計は、大学の学生数とほぼ同じです。大学は今日の会場の小金井キャンパスのみで、こちらに大学図書館があります。
図書館が取り組んでいる活動に、一般社団法人東京学芸大Explayground推進機構の事業があります。Mistletoe Japan社と共に、遊びを通じて新しい学びを作ること、そして学校教育の変革も目指して活動しています。学内でたくさんのラボ活動がされていますが、その一つが2019年に立ち上げた「知の未来を考える～Möbius Open Library（MOL）」という図書館のラボで、この活動が、Library of the year 2023優秀賞を獲得しました。私たちの未来に向けた取り組みや気概を認めていただいたと思います。
このラボ活動の中で図書館の本質について議論し、「知の循環の再構築」をコンセプトに掲げました。図書館の「知の収集→整理→保存→提供」という活動と、「知の吸収→活用→創出→発信」という学びの活動の輪がつながり、無限に巡回するような知の循環を目指します。その取り組みを3つご紹介します。



All Rights Reserved,Copyright © Campus System Research Group of Private Universities 2023

●デジタル書架ギャラリー

本来ある図書館空間を、オンライン上で提供する取り組みです。きっかけは2020年4月にコロナで閉館してしまったことです。郵送での対応もしていましたが貸し出し数が伸びず、何を借りたら良いか分からない学生が多いのではないかと思いました。書架を眺めるブラウジングという図書館の醍醐味を、コロナ禍でも提供できないかと考えたのが出発点です。Explaygroundのコンセプトに則って遊び心を入れ、楽しみながら進めました。NDC370番台の教育学系の書架を中心に約2万冊の背表紙を載せています。翌年はさらに発展させOPACと連動する機能も追加しました。

附属学校でも、世田谷中学校と小金井小学校の書架ライブラリーを提供しています。世田谷中学校では蔵書管理のシステムを活用しました。

デジタル書架ギャラリー｜東京学芸大学附属図書館

●デジタルアーカイブの利活用

教育コンテンツアーカイブを2022年にリニューアル公開しました。コレクションの内容は、子供の教育に関する資料が中心で、絵双六や往来物（学習書）を多く所蔵しています。利用してもらいやすいよう、クリエイティブコモンズのCC BY 4.0相当のライセンスで提供するようにしました。学芸大の所蔵であるということを示していただければ、複製や再配布が可能です。

システムはIIIF（International Image Interoperability Framework）規格に対応しました。また「学校教材を探す」というメニューを作り、歴史や古典等の授業で使ってもらえそうなコンテンツを探しやすくしています。さらに学習指導要領コードをメタデータに付与して、コード番号で検索できるようにもしました。

東京学芸大学教育コンテンツアーカイブ

●附属学校との連携

これまでも学校図書館との相互利用（資料貸し出し、来館）を行ったり、2009年からは「先生のための授業に役立つ学校図書館活用データベース」を提供したりしてきました。一部の学校では図書館がシステム化されておらず、コロナ禍でOPACがない不便さを痛感しました。そこでカーリル社の協力でデータベース化し、学芸大学学校図書館の総合OPAC、「GAKUMOPAC」を構築しました。この活動は、各学校の学校司書、司書教諭、大学図書館の職員等がメンバーとなっている東京学芸大学学校図書館運営専門委員会が運用しています。

GAKUMOPAC (u-gakugei.ac.jp)

ここからは少し未来の図書館の話をします。皆さんにとって図書館とはどんな場所でしょうか。「本がたくさんある静かな場所」だけでなく、ラーニングコモンズのような声を出せる学びの場所でもありますし、図書館員、司書がいるというのも図書館の大事な要素だと思います。「知の循環」の要素から、これからの図書館を考えてみます。

①収集
　紙⇒電子ブック/ジャーナル⇒【今後】研究データ（画像/動画、VR/ARを含む）
②整理（目録）
　カード⇒NACSIS-CAT⇒汎用性の高いメタデータ⇒【今後】AIによるデータ作成や分類自動化
③保存（書庫）
　書庫・集密書架⇒自動書庫⇒【今後】倉庫ロボット・コンテナ
④提供（貸出）
　カウンター⇒自動貸出装置・ICタグ⇒【今後】AI判定による貸出、ドローンでの配送
⑤提供（レファレンス）
　司書⇒Ask a Librarian（デジタルレファレンスサービス）⇒【今後】AIによるレファレンス

生成AIに関しては学会等でも多く取り上げられていますが、正確性が必要とされる業務の効率化よりも、創造性が必要な仕事の一部に適用を考えると良いと考えています。今後図書館は、紙の本からデジタル、そしてAIや多様なデータを扱うようになっていくでしょう。私が図書館にとって大切だと考えるのは「知の循環の再構築」ですが、これは各図書館、図書館員によって様々だと思います。いろいろな課題やチャレンジはありますが、何を大切にしたいかを考えて遠い未来の図書館を考えていきましょう。

All Rights Reserved,Copyright © Campus System Research Group of Private Universities 2023

■施設見学会

会場参加の方は、2グループに分かれ、図書館を見学させていただきました。一部をご紹介します。

●大学史資料室
2021年に開設され、常設展示を行っています。見学時は、「師範学校における学びと生活」のテーマで100年ほど前の修学旅行の資料等が展示されていました。

●インフォメーションコモンズ
貸出手続きをした視聴覚資料を観たり、データベースを利用したりできるスペースです。
学生がBYODで持ち込んだノートPCを活用できるよう個人席を多数配置しています。

●教育学関連図書
NDCの370番台（教育学）の書籍が多く、教育史から各教科に関する教育、学習指導要領まで、書架4つほどがすべて370番台です。

●貴重書庫
一昨年増築された新しい貴重書庫です。往来物、教科書等、教育関係のコレクションを収集しています。寺子屋の様子が描かれた実際の書物や練習帳を見せていただきました。

●学芸本ガチャ
段ボール製のガチャを回すとカプセルが出てきて、中に紙が入っています。その紙に書架の棚の番号と場所が書いてあり、その本を手に取るよう促し、新しい本に出合ってもらう取り組みです。
オンラインガチャも提供しています。学芸本ガチャ！ ｜ 東京学芸大学附属図書館

●ラーニングコモンズ
自習やグループワークに使えるスペースで、グループワークエリア、アクティブエリア、セミナーエリア等に分かれています。

●教科書コーナー
現行のすべての教科書がそろっています。協定を締結した出版社のデジタル教科書も閲覧可能です。

■交流会

会場に戻り、3グループに分かれて交流会を行いました。それぞれのグループで、自学が取り組んでいるDX事例などに関して活発な意見交換がされていました。
結びに神田外語大学　吉野氏が、「久しぶりの対面開催で交流ができて嬉しく思います。今回は東京学芸大学にご協力いただき、高橋様には非常に示唆に富んだお話をいただきました。この会が、皆様にとっても良い刺激になればと思います」と述べて閉会となりました。

All Rights Reserved,Copyright © Campus System Research Group of Private Universities 2023

4. 参加校 [25校43名] ・参加企業等[7社37名] ・参加総数[80名]

愛知教育大学[2] 亜細亜大学[1] 大阪教育大学[1] 学習院大学[1] 神奈川大学[2] 関西国際大学[1] 神田外語大学[4] 共立女子大学[4] 順天堂大学[1] 津田塾大学[2]	東海大学[1] 東京学芸大学[6] 東京都立大学[1] 東京理科大学[3] 名古屋市立大学[1] 奈良女子大学[1] 日本福祉大学[2] 新潟大学[1] 白鴎大学[1] 福岡女学院大学[1]	明治大学[2] 名城大学[1] 立命館大学[1] 流通経済大学[1] 早稲田大学[1]	株式会社早稲田大学アカデミックソリューション[1] ジュニパーネットワークス株式会社[1] 大興電子通信株式会社[1] 東京コンピュータサービス株式会社[4] 富士電機ITソリューション株式会社[4] 有限会社ハーティサービス[1] 富士通Japan株式会社[25]

5. 所感（図書館分科会運営委員会）

今回は『図書館のサービス改善とDXへの取り組み』をテーマに、東京学芸大学付属図書館様にご講演・事例紹介及び施設見学をさせていただきました。

図書館の【知の循環】を目的としてのラボ活動、コロナによる閉館を契機としてOPAC上でもブラウジングができるようデジタル書架ギャラリーや、併設校との連携等、様々な取り組みについてお話しいただきました。未来の図書館を考えるきっかけにもなるような講演で、よい刺激になったのではないかと思います。

また、今回はオンラインと対面のハイブリッドでの実施となりましたが、コロナ禍を経て、久しぶりに対面で実施することができた分科会となりました。直接図書館見学や意見交換を行い、改めて対面でしか感じられない肌感や、コミュニケーションの取りやすさをを感じることが出来た会となったのではないでしょうか。交流会も各グループ盛り上がっており、もう少し長めにしてもよかったかなと個人的には思いました。

今回の分科会が、2023年度最後の図書館分科会となります。一年間多くの方にご参加いただき、誠にありがとうございました。次年度の分科会へのご参加も、どうぞよろしくお願いいたします。

【分科会の様子】

【事務局より】
次頁以降に開催後アンケート結果（抜粋版）を記載しています。
開催後のアンケート結果詳細版や当日プレゼン資料ご覧になりたい方は、「CS研・IS研情報交換サイト」に掲載しておりますのでそちらをご覧ください。

「CS研・IS研情報交換サイト」について
○CS研・IS研の会員向けに情報・資料をご提供し、会員の皆様で情報交換をする会員専用のサイトです。
（新規入会・サイトのご利用をご希望の方は、利用アカウント申し込みサイトにてお申込みください。）

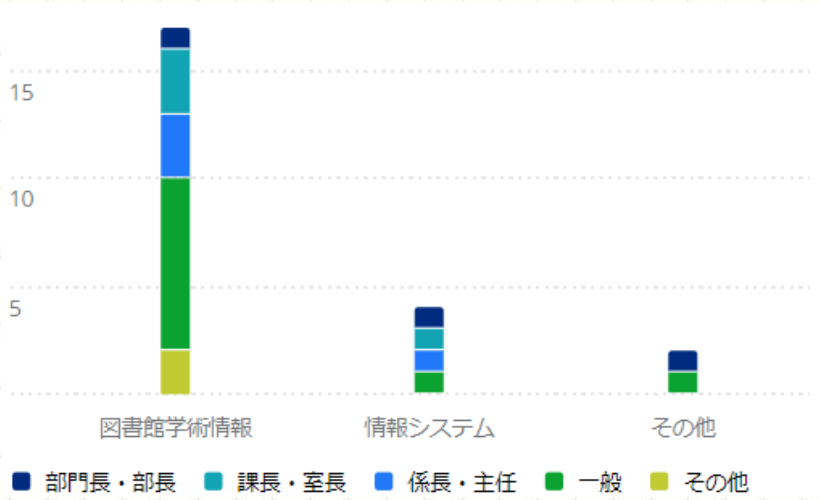
情報交換サイトURL： **https://csis.ufinity.jp/shared**
※利用アカウント申し込みサイトURL： https://seminar.jp.fujitsu.com/public/seminar/view/89954

【連絡先】
私立大学キャンパスシステム研究会　事務局
〒105-7123　東京都港区東新橋1-5-2 汐留シティセンター
富士通Japan株式会社　教育ソリューションビジネス部内
E-mail：contact-csisken@cs.jp.fujitsu.com

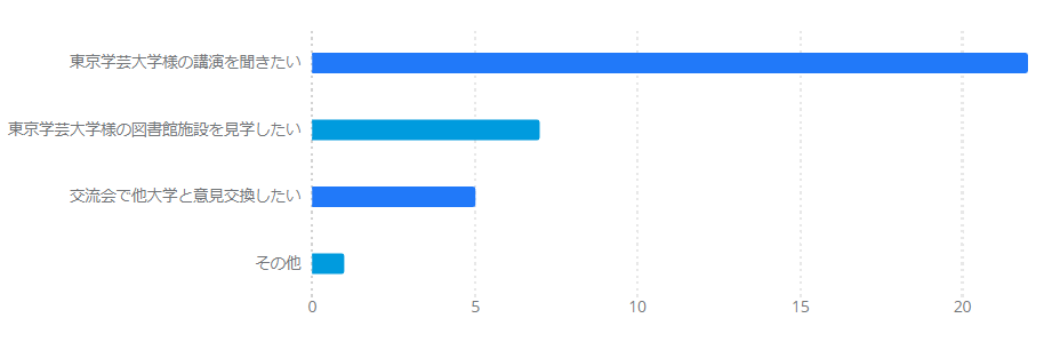
All Rights Reserved,Copyright © Campus System Research Group of Private Universities 2023

開催後アンケート結果 【回答数／対象者数：23／43（大学関係者のみ）】

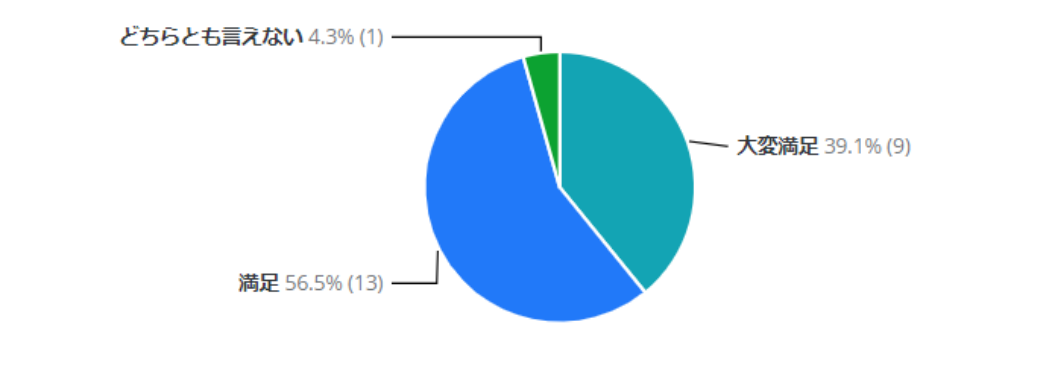
■担当業務と役職について



■参加した目的について



■本日の分科会の全体満足度について

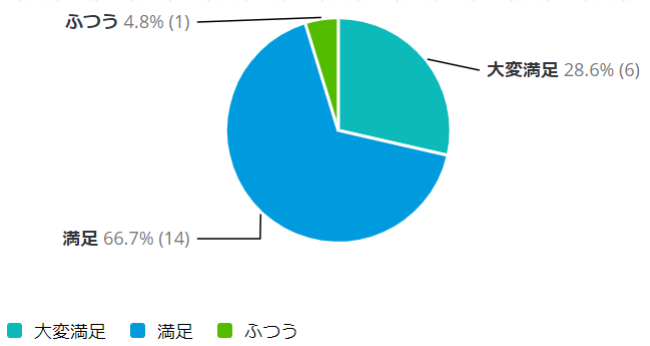


All Rights Reserved,Copyright © Campus System Research Group of Private Universities 2023

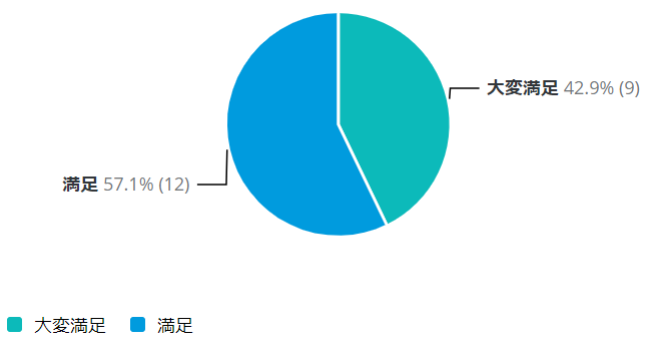
■全体満足度の評価理由について（一部省略・抜粋）

- 学芸大学・付属小等での事例が盛りだくさんで興味深く、「新しい技術の適用可能性」についての四象限や、「図書館の過去・現在・未来」における事例を納得しながらお聞きしました。危機、困難からではなく「大切な価値観」から未来を見る、というのは現場からは雲をつかむようなところもありますが、実践があるので説得力がありました。
- 学習指導要領に紐づけたデジタル化の仕組み、学校間連携の取り組み等、大変参考になりました。
- 講演を聞くことが出来たので目的は達したが、遠方でもありオンライン参加となったため、施設見学ができなかったのは残念だった。
- 東京学芸大学図書館の取り組みについて知ることができた。説明がわかりやすかった。
- 今まで取り組んできたことから、取り組んでいること、そして現在と未来の話を他国、他大学の技術を交えながら聞けて良かったです。
- ずっと見学したいと思っていた東京学芸大学さんにお伺いできました。この機会をありがとうございました。
- 先進的な図書館事例を拝見し、モチベーションが上がった。
- 図書館の未来について考える切っ掛けになりました。
- 東京学芸大学様のご講演内容と施設見学に興味があり、参加しました。 どちらも濃い内容で楽しめました。 最後のグループワークの時間がもう少し長ければ嬉しかったです。
- 前半部分は図書館関係者には周知のことだったので、後半部分の内容をもっと充実させてほしかった。最後のAIのところなんかは駆け足気味だったのが残念。
- 気になっていた学芸大学様の取り組みを知ることができたので
- 3D書架も含めて学芸大学図書館の取り組みを聞くことができた

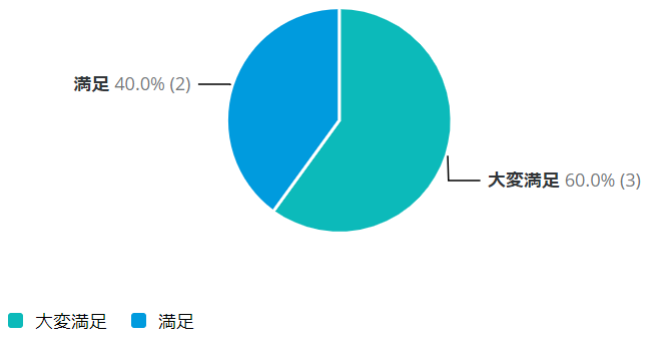
■満足度－開催テーマについて



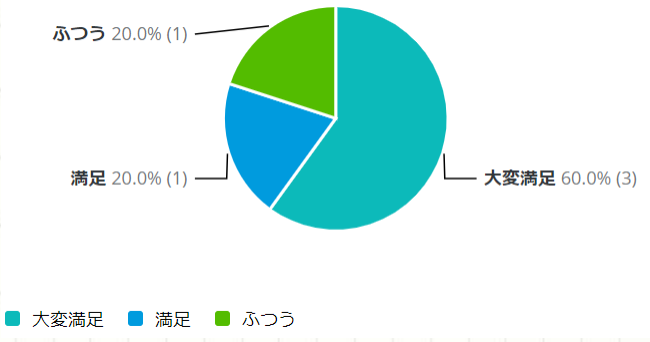
■満足度－東京学芸大学様ご講演について



■満足度－東京学芸大学様施設見学について

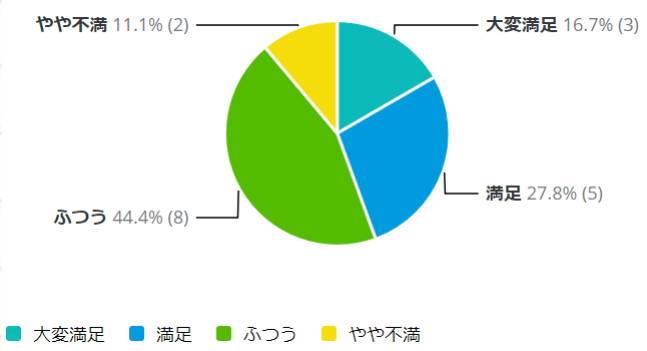


■満足度－交流会について

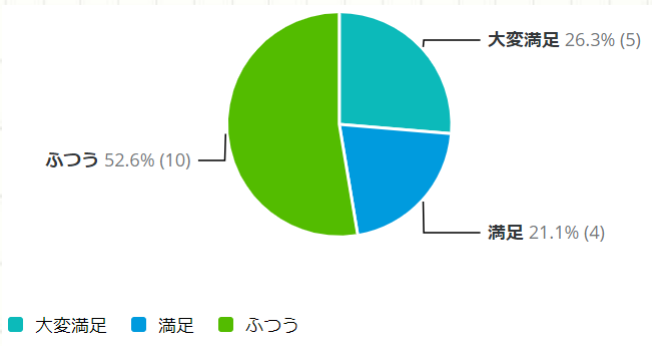


All Rights Reserved,Copyright © Campus System Research Group of Private Universities 2023

■満足度－時間配分について



■満足度－当日の運営について



■今後、CS研で取り上げて欲しいテーマについて（一部省略・抜粋）

- 入試の完全オンライン化

■ＣＳ研についてのご意見・ご要望について（一部省略・抜粋）

- 本日は当日での資料の配布大変助かりました。やはり資料がその場であると大変助かりますので、次年度も引き続きお願いできればと思います。またハイフレックスでの公演は、本当に難しいこととは思いますが、やはりオンライン側への配慮もいただけるとと思いました。 今日参加していても、プログラムも含めて対面重視が感じられました。対面での良さを前面にだして次回は対面で参加してくださいという感じでもOKかと思いますが、オンラインでの良さもありますので、ぜひ運用のなかでご一考ください。
- 幹事のみなさま、いつも貴重な機会をありがとうございます。
- 初めて参加しましたが、運営ありがとうございました。

All Rights Reserved,Copyright © Campus System Research Group of Private Universities 2023